



Racing Specialities

保存版

# RAPIDE NEO

## 取扱説明書

ご使用前に必ず本書をお読みください

本書はヘルメットの使用方法、お手入れ方法、使用上の注意を説明しています。正しくご使用していただくため、最後までよくお読みください。また、本書はいつでも読み返せるよう、大切に保管してください。万一、本書を紛失された場合は、弊社『品質管理課』までお問い合わせください。製品の改良などにより、お客様に予告なく仕様の変更を行う場合がありますのでご了承ください。



Shield System  
Vas-VC

ES Chin Cover-V対応

本書の各図記号は以下のような意味を表しています



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性が高いと思われる事項であることを示しています。



左のマークで表記されている事項は、この表示を無視して誤った取り扱いをした場合、ヘルメットを破損させ、安全装備としての機能を低下させる可能性が高いと思われる事項であることを示しています。

本製品は日本国内仕様です。国外では使用しないでください。尚、他国には各々の国で必要となる法律、規格等が定められており、日本国内仕様である本製品は適合していません。

## 安全のために守って頂きたいこと

このたびアライヘルメットをお求めくださいましたことを、心より感謝いたします。私共は日本で最も長い歴史を誇るヘルメットメーカーとしてその歴史に恥じぬヘルメットを作り、より多くの方々の安全を守る為に努力しております。しかし、私共が努力して作った製品といえども、いかなる事故にも絶対という訳ではありません。ヘルメットは万一の際に危険の度合を減らす装備の一つであり、安全の一要素にすぎません。ヘルメットの着用に際しては以下の注意事項をよくご理解いただき、常に安全を心がけて運転されますよう、お願いいたします。

▼ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。

安全のためには、「自分の頭にピッタリ合ったサイズのヘルメットをかぶる」ということがとても大切です。緩すぎたりキツすぎたりしてヘルメットのサイズが自分の頭に合っていないと、ヘルメットは安全性能を十分に発揮することができません。下記の「試着のポイント」を参考にヘルメットをお選びください。



- ヘルメットを購入する際は、必ず試着を行ってください。ヘルメットは同じサイズ表示であっても、オープンフェイスやフルフェイス等タイプが異なると、かぶった際のフィット感も異なります。
- ヘルメットをかぶった状態で頭を前後左右に振っても、頭の動きに対してヘルメットがワンテンポ遅れずにしっかりと追従すること。
- ウレタン素材等の進歩によって、「少しきつめを選んでおけば、使っているうちに馴染んで緩くなる!」といった事は、最近ではあまり期待できません。サイズ選びの際にはヘルメットをかぶった際の内装のフィット感が全体的に均一であり、尚且つ頭部に部分的な締め付けや圧迫などを感じないサイズのヘルメットをお選びください。



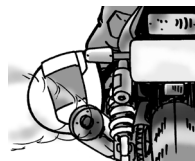
### ▼あご紐は正しく締めてください。

転倒した際、頭に受ける衝撃の方向は予想することができません。ある時はヘルメットを脱がすような方向から衝撃が来るかもしれません。そんな時、ヘルメットを頭にしっかりと固定しておくのがあご紐の役目です。ヘルメットをかぶっていても、あご紐を正しく締めていなければヘルメットをかぶらない状態と同じです。ヘルメットをかぶる時には必ずあご紐を正しく締めてください。



### ▼ヘルメットの持ち運びには注意！

ヘルメットカバーにヘルメットを吊り下げたまま走行すると、ヘルメットと車体との干渉により車体可動部の動きを妨げるおそれがあります。そして、ヘルメット本体や車体とヘルメットを繋いでいるあご紐も傷つけるおそれがあります。また、ヘルメットを持ち運ぶためにヘルメットの窓に腕を通したり、あご紐で腕に吊り下げて運転するのもオートバイの操縦に支障をきたしますので絶対におやめください。



### ▼あご紐（ストラップ）のコンディションにご注意ください。

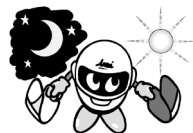
あご紐は安全の要です。短くて硬いアゴ髭と長時間接触したり、路面等の硬いものと擦れたり、ライディングジャケット等の襟部分の面ファスナーなどに触れると繊維が徐々に千切れてあご紐に毛羽立ちが生じます。あご紐に毛羽立ちやほつれを発見した場合は、あご紐の修理を弊社品質管理課までご依頼ください。※あご紐の修理代金とヘルメットの往復送料は、お客様のご負担となります。



あご紐が毛羽立ったままでヘルメットを使い続けると、ほつれが進行してあご紐が次第につれて（ひきつって）変形してしまいます。変形したあご紐では装着時の締め付けが不十分だったり、衝撃を受けた際にDリングから抜けるおそれがあり大変危険です。

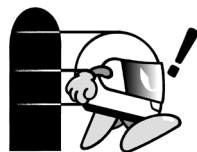
▼走行条件に合ったシールドをお選びください。※シールドを装備したヘルメットに限ります。

周りが暗くなってきたにも関わらずスモークシールドのままで走行すると、視界が悪化し状況判断し難くなり大変危険です。ツーリングなどで夜間も走行する場合は、光線透過率が70%以上のアライヘルメット純正クリアーシールドに交換してください。尚、外したシールドは傷を付けないようにご注意ください。



▼走行中の急激な環境変化に注意する。※シールドを装備したヘルメットに限ります。

走行時におけるヘルメット内の温度は、ほぼ一定ですが、ライダーは高速度で移動しているため周辺環境（気温・湿度）は常に変化しています。そのため、峠道などの高低差が生じる道路、または突然の雨やトンネルに入った（出た）瞬間、ヘルメット内部と周辺環境の急激な温度変化により、シールド面（外面か内面かは状況によって変わります）に結露（露付き現象）が発生し、急激に曇ってしまう場合があります。このような状況が予想される時にはシールドを微開にしておき、予めシールド内外の温度差を少なくしたり、安全を確保できる走行スピードに調整するなどの注意が必要です。



▼ヘルメットを塗装する際の注意。

ヘルメットを塗装する際は、以下の点にご注意ください。まず、ヘルメットの表面を中性タイプの食器洗い洗剤で洗い、汚れや油分を落としてから800番程度のサンドペーパーで表面を研磨します。ヘルメット内の衝撃吸収ライナ（発泡スチロール製）は塗料に含まれる溶剤によって溶けてしまい衝撃吸収性が失われてしまいますので、塗料が染み込まないように入念にマスキングしてください。ヘリ部分、ホック類、ネジ孔なども同様にマスキングして、ご使用になる塗料の説明書にしたがって塗装を行ってください。但し、乾燥時に50℃以上の熱を必要とする塗料はご使用できませんのでご注意ください。カバーやダクト等の樹脂成型品の塗装は、必ずポリカーボネート樹脂用の塗料と溶剤をご使用ください。尚、ヘルメットを構成する部品（衝撃吸収ライナや窓ゴム・縁ゴム等）をバラバラに分解して塗装するのは、絶対にお止めください。





### ▼ヘルメットの高温乾燥は厳禁！

ヘルメットを50℃以上の熱に曝すと素材に変形や変質が生じ、ヘルメットの性能を大きく損ないます。ヘルメット全体、または取り外した内装を、業務用乾燥機・ドライヤー・ストーブ・各種ヒーター類・電子レンジ・オーブン・各種バーナー、トーチ類・直火などで絶対に乾かさないでください。また、衣類乾燥機、洗濯乾燥機による内装の乾燥も、その乾燥温度が50℃以上に達する場合は使用をお止めください。



### ▼ヘルメットの改造は厳禁！

ヘルメットの基本構造は頭を何らかの物質と空間で覆い、頭を保護するものです。安全性を高める為には、より多くの物質、空間が必要となり、したがって安全性の代償として僅かとはいえ視界・聴力・運動性が損なわれる可能性があります。例えば、ヘルメットをかぶると音が聞こえにくく感じる例があげられます。これは周波数の高い音がクッション材などによって吸収されることによって音質が変化するためで、通常の会話などの周波数音はほとんど吸収されません。このことをご理解いただければ、ご支障なく運転ができます。また、帽体に聴音孔をあけると衝撃吸収性能が低下するだけでなく、かえって風切音が大きくなり聴力を妨げる原因となります。メーカーに相談せず帽体や衝撃吸収ライナに孔をあけたり、削ったりするのは絶対におやめください。



### ▼衝撃を受けたヘルメットは再使用できません！

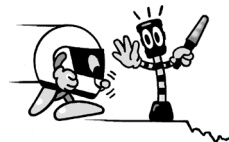
ヘルメットは衝撃を受けると、その一部が壊れることで衝撃を吸収して頭を守るように作られています。したがって、かぶった状態で衝撃を受けたヘルメットは、例え表面に大きなキズ等が見られなくても衝撃吸収のプロセスによって内部構造が破壊されています。一度でも大きな衝撃を受けたヘルメットは継続して使用せず、弊社品質管理課まで事故の状況説明と共にヘルメットをお送り頂き、再使用可能かどうか検査を依頼されるか、新しいヘルメットをご購入ください。



※ヘルメットの検査自体は無料です。ヘルメットの往復送料のみ、お客様のご負担となります。

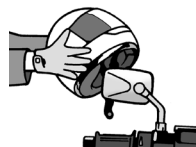
## ▼走行時のヘルメット操作は危険！

オートバイで走行中、シャッターの開閉等の操作を行うにはハンドルから一時的に手を離さなければならず、その結果オートバイの運転に支障をきたすおそれがあります。ヘルメットの操作は停車時に行ってください。但し、シールドやサンバイザーの開閉は視界の確保などに必要なので、この限りではありません。



## ▼ヘルメットをミラーに引っ掛けしないで！

バックミラーにヘルメットをかけると、ミラーの角でシールドが傷付いたり、衝撃吸収ライナが変形するおそれがあり、変形したライナは衝撃吸収能力に少なからず影響を及ぼします。また、ヘルメットの上に腰掛けるのも厳禁です。ヘルメットの縁ゴム※を傷付け、それをきっかけに縁ゴムが剥がれたり、削れたりしてヘルメット裾部が露出するおそれがあります。



※縁ゴムは帽体の裾部をカバーして、転倒時に首や肩などを傷つけることを防ぎます。

## ▼長期間ご使用の場合は樹脂成型品の点検及び交換を行ってください。

ヘルメットに使用されている樹脂成型品は、日々の使用による可動部の磨耗や紫外線による素材劣化が生じます。不意の破損を防ぐために定期的な点検を行ってください。特にシールドベースやそれを取り付けるためのネジ、カバーやアーム、ワッシャー類などはとても重要なパーツですので、亀裂や磨耗、破損を発見した場合は、早急にパーツの交換を行ってください。



## ▼ヘルメットの性能は永久不変ではありません。

ヘルメットは日々の着用に伴い、ヘルメットを構成する素材の老朽、劣化などの経時変化によって、新品時と同じ性能を維持できなくなる場合があります。現在ご使用中のヘルメットに特に不具合が見られなくても、SGマーク※の有効期限である三年を目安に、そのヘルメットの着用を開始した日から数えて三年以上経過したヘルメットは買い替えをお勧めします。※（一財）製品安全協会のSGマーク被害者救済制度



## ▼ヘルメットを不安定な場所に置かないで！

オートバイのタンクやシート上など平面でない滑りやすい場所にヘルメットを置くと、ヘルメットが落下するおそれがあります。ヘルメットは中身が空っぽの状態でも1m以下からの落下であれば、性能に大きくは影響しませんが※、落下時にヘルメットの部品が破損した場合、そのまま使用すると走行中に部品が外れたりするおそれがあります。部品が破損した時には、速やかに新しい部品と交換してください。

※例えば1m以下からの落下であっても、同一箇所に複数回衝撃が加わった場合はヘルメットの性能が損なわれます。



## ▼ペットの近くにヘルメットを置かないで！

ペットの活動範囲にヘルメットを置かないようにご注意ください。ペットがヘルメットをおもちゃにして、噛んだり、転がしたり、引きずり回したりする場合があります。また、<sup>げっしるい</sup>齧歯類の場合には内装生地やウレタン製のクッション材を巣作り（寝床）の材料にするために齧り取ったりしてヘルメットを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットから外れた部品などをペットが誤飲するおそれもありますので十分ご注意ください。



## ▼ヘルメットの製造年月日について

ヘルメット内面に貼られる検査ラベルに最終検査を行った日付が、そのヘルメットの製造年月日としてスタンプされています。尚、ヘルメットに付属の印刷物（シールドラベルや取扱説明書など）に表示される数値等は印刷物の管理コードであり、ヘルメットの製造年月日とは関係ありません。



## ▼窓ゴムや縁巻き（縁ゴム）に生じる粉吹き現象について

窓ゴムや縁ゴムに生じる白い粉状のものはブルーム（ブルーミング現象）で、空気中に含まれる酸素やオゾン・紫外線などにより、ゴムに添加された配合剤が表面に浮き出して白い粉状に結晶化したものです。この結晶化したブルームは、水やぬるま湯を含ませた柔らかい布で簡単に拭き取ることができます。機能上問題はありませのでヘルメットを安心してお使いください。

▼偏光レンズを使用したサングラス・保護メガネ等のご使用について※シールドを装備したヘルメットに限ります。

シールドは、ポリカーボネート樹脂を原料とする「金型射出成型」と「平板の熱曲げ」の二種類の製造方法があります。しかし、いずれの方法においても成形時に少なからず残留応力が発生します。その残留応力によるシールドの分子量の変化が偏光レンズによって虹色の模様となり、シールド越しの風景が見え辛くなります。この事をご理解いただき、偏光レンズの使用はお控えください。

▼ベンチレーションダクトについて※ベンチレーションダクトを装備したヘルメットに限ります。

●ベンチレーションダクトは両面テープやネジでヘルメットに固定されています。無理に外そうとすると、ヘルメット本体やベンチレーションダクトが破損するおそれがあります。

●トップケース等ケース類にヘルメットを収納する際は、ケース内部（特に天井部）とヘルメットとの間に隙間があるかどうか確認を行ってください。この隙間が十分確保されていない場合、ケースの蓋を強く閉じた際、ヘルメットに打撃が加わりベンチレーションダクトを破損させるおそれがあります。また、ヘルメットを取り出すきっかけとしてダクトの開口部などに指をかけないでください。

●暑い日に、ケース類にヘルメットを長時間収納すると、内部温度の上昇によってベンチレーションダクトを固定する両面テープの接着力が低下して、ズレや剥がれが生じるおそれがあります。また、ヘルメットの収納部がマフラーに近い場合も内部温度の上昇によって同様のトラブルが生じるおそれがあります。

▼つや消し塗装のヘルメットについて

●つや消し塗装のヘルメットのお手入れに、アルコール・ガソリン・ベンジン・灯油・シンナー系の溶剤等は絶対に使用しないでください。付着した汚れは水やぬるま湯を少量含ませた軟らかい布で拭き取ってください。この時に表面を強くこすると部分的なつやが生じてしまいますのでご注意ください。もし汚れが落ちない場合は、中性タイプの食器洗い洗剤を水で薄めてご使用ください。

●つや消し塗装面を消しゴムで強くこすると、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。また、コンパウンド（研磨剤）や、コンパウンドを含むワックス等でヘルメット表面を磨くと、塗装面に部分的なつやが生じますので使用しないでください。

●つや消し塗装の性質上、各種塗料・インク・ボールペン・油性 / 水性マーカーなどが付着した場合、きれいに落とす事ができません。付着させないように十分ご注意ください。

## ▼ヘルメットのお手入れにご使用になる洗剤について

頑固な油污れ用の【アルカリ性洗剤・弱アルカリ性洗剤】、バス・トイレ用の【酸性洗剤】はヘルメットのお手入れに絶対に使用しないでください。使用した場合にはヘルメットを破損して、その機能を損なうおそれがあります。

pH (水素イオン指数)	3以下	3以上～6未満	6以上～8未満	8以上～11未満	11以上
液性	酸性	弱酸性	中性	弱アルカリ性	アルカリ性
ヘルメットへの使用	×	×	○	×	×

ヘルメットに、中性以外の洗剤はご使用頂けません。



ヘルメットのシールドやベンチレーションダクト、カバー等の樹脂成型品のお手入れには【中性タイプの食器洗い洗剤】を、ヘルメットの内装のお手入れには【中性タイプの洗濯洗剤】を推奨しています。しかし、たとえ液性が中性であっても使用する状況や条件によって樹脂成型品を破損させるおそれがありますので十分ご注意ください。

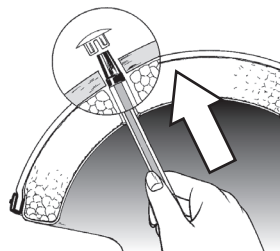


樹脂成型品に中性洗剤の原液を直接掛けたり、洗剤を溶かした水の中に長時間漬け込んだり、洗浄後の洗剤成分の除去が不十分だった場合、洗剤成分が樹脂成型品に浸透して亀裂や割れを生じさせる原因となります。中性洗剤をご使用後は、樹脂成型品に洗剤成分を残さないように流水でよく洗い流してください。

## ▼ドレンキャップの外し方 ※ドレンキャップを装着したヘルメットに限りです。

ヘルメット内部の天井部分の穴（ドレンホール）にキャップ式ボールペンの軸を差し込み、衝撃吸収ライナ（発泡スチロール製）を傷つけないように注意しながらドレンキャップをゆっくりと押し出してください。尚、取り外したドレンキャップは小さいので紛失にご注意ください。

ドレンホールは、オプションダクトの取り付けや、洗った後の水抜きに利用します。



# ラパイド・ネオの特長

## VAS-Vロック

RX-7Xで初採用された、レバーによる強固なシールドロックシステムであるVAS-Vロックは、衝撃によるシールドの不意の開放を可能な限り防ぎます。

## VAS-VC

VASとは、シールドの回転軸を可変させることで固定された回転軸とは異なるカバー範囲を飛び越す仮想軸を創り出し、カバー及びシールドベースのコンパクト化を実現しました。

VAS-VCでは、ラパイドNEOの持つ雰囲気壊さぬように、表面にネジ頭が露出するクラシカルな方式を採用しました。

またVAS-VCは、シールドの取り付けに必要なパーツ（シールド・シールドベース・カバー）を全て一つにまとめた、VAS-VCアセンブリ形態にすることができます。



### ご注意

VAS-VCシールドベース及びVAS-VCカバーは、ラパイドNEO専用パーツとなります。これらのパーツは、ラパイドNEO以外のヘルメットには取り付けできませんのでご注意ください。

## エアフローライナ・エキゾーストスリット

シンプルなデザインを活かすため、ラパイドNEOの表面にベンチレーションダクトはあえて配置されていません。ヘルメット内の熱気は、ライナに設けられたエアルートにより導かれ、後頭部裾部のエキゾーストスリットより排出されます。

## ブローベンチレーション

ブローシャッターから取り入れられた外気は、インナーダクトによってヘルメット内部へと導かれます。

## インナーシャッター

センターパッドに備わったインナーシャッターを開くと、マウススリットからの外気が口元に導かれて息苦しさを解消します。インナーシャッターを閉じると、外気はディフレクター方向に導かれてシールドの曇りを軽減します。

## FCSシステムパッド

FCS構造を取り入れたシステムパッドは、ウレタンパッドを支える【バックプレート】の持つスプリング効果によってアゴ下まで包み込むことで深いかぶり心地を与えます。また、このプレートの変形作用によってヘルメットの着脱もスムーズに行うことができます。

## 固定式エアフラップ

走行時のヘルメット下部を流れる空気を整え、風の巻き込みを抑えます。

- ①エアフローライナ ②マウススリット ③エアロフラップ  
④VAS-Vロック ⑤エキゾーストスリット ⑥VAS-VC  
⑦ブローベンチレーション



NEO AMシステム内装



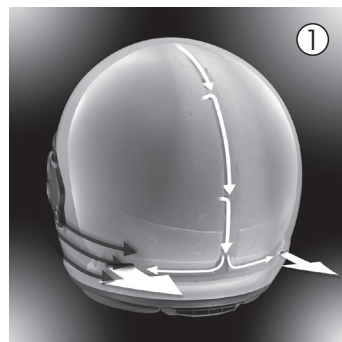
NEO AMシステムパッド



NEO AMトラップカバー



NEO AMシステムネック



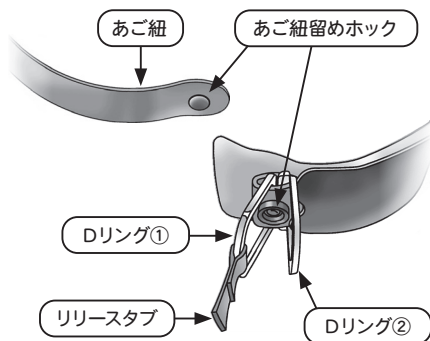
Image

目次	ページ
安全のために守って頂きたいこと	2～9
A あご紐の正しい締め方	12～13
B デミストポジションについて	14
C VAS-Vシールドの開閉	15
D ブローシャッターの操作	16
E インナーシャッターの操作	16
F ディフレクターの着脱	17
G シールドの外し方	19
H シールドの付け方	20～21
I VAS-VCアセンブリの分離と合体	22～23
J システムパッドの着脱	24～25
K パッドカバーの着脱	26～27
L システム内装の着脱	30～31
M ヘルメットのサイズ調節	33
N システムネックの着脱	34～35
O ストラップカバーの着脱	36～37
P ヘルメットのお手入れ	38～39
Q オプションパーツリスト	40
お勧めするオプションパーツ ESチンカバーVのご紹介	42～44
巻末付録	45

## A あご紐の正しい締め方

あご紐を正しく締めていない場合、万一の際にヘルメットの安全装備としての機能が十分に発揮できません。当ページを良くお読みになり、あご紐を正しくご理解いただきますよう、お願いいたします。

あご紐の各部名称

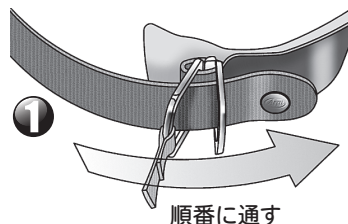


あご紐を正しく締めていない場合、転倒時の衝撃でヘルメットが脱落し、死亡または重傷を負う危険性があります。

### ①二つのDリングに通す

あご紐を、Dリング①→Dリング②の順番に中に通します。

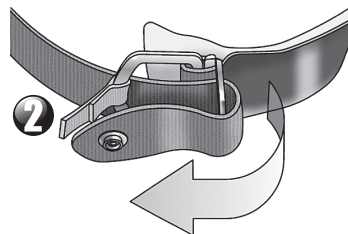
※あご紐を通す際、途中でねじれさせないようにご注意ください。



順番に通す

### ②あご紐を180°折り返す

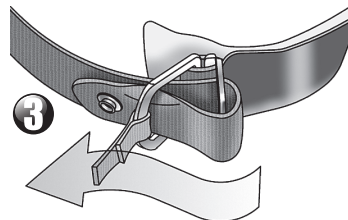
Dリングにあご紐を通したら、あご紐の先端を軽く引っぱり、弛みを取り除きながら180°折り返します。



180° 折り返す

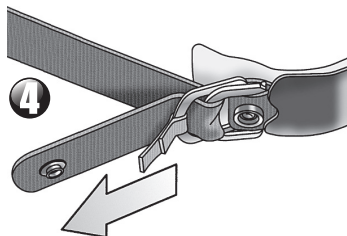
### ③Dリング①に再び通す

折り返したあご紐の先端を、Dリング①に通します。



Dリング①に通す



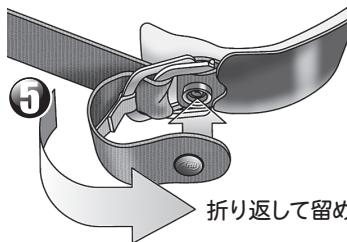


#### ④あご紐を引っばる

あご紐の先端部を持ち矢印の方向に引っばると、あご紐が締まります。

あご下とあご紐の間に指を1～2本差し入れて襟元を直すように左右に動かしても、指の背が常にあごに触れる位が適切な締め具合です。

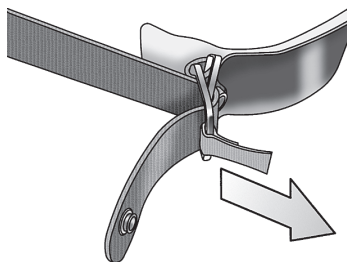
※人差し指と中指の一番太いところが直径2cm未満の方は指二本で、それ以上の方は、人差し指一本で確認しましょう。



#### ⑤余った先端部を留める

【あご紐留めホック】で余ったあご紐の先端を留めることで、あご紐の風によるバタ付きや、襟元の面ファスナーへのあご紐の付着を防止できます。

乗車服や雨合羽などの襟元の面ファスナーにあご紐が付着すると、後方確認時に首の動きを妨げるおそれがあります。また、面ファスナーにあご紐が付着すると毛羽立ちの原因になります。



Dリングに通さず、あご紐留めホックで留めただけの状態であご紐を持たないでください。  
あご紐留めホックが外れてヘルメットが落下し、破損させるおそれがあります。



#### リリースタブの使い方

【あご紐留めホック】を外し、リリースタブを摘んで矢印の方向に引っばると、あご紐を簡単に緩めることができます。

## VAS-Vロックについて

VAS-Vシールドは、四輪用ヘルメットのGP-6で採用されたレバーによる強固なシールドロックシステムをベースとしたVAS-Vロックによってシールドがロックされ、外圧や衝撃による不意のシールド開放を可能に限り防ぎます。

### VAS-Vロック各部名称

- ①Vロックレバー
- ②Vロックベース
- ③シールド
- ④シールドの指かけ



## B シールドの開閉

まずはデミストポジションのご説明から

シールドロックからデミストポジションへ

Vロックレバーの前方を親指の腹で押し上げると、シールドロックが解除され、シールドが少し開いて隙間が生じます。この状態をデミストポジションと呼称し、隙間から入り込む外気はシールドの曇りを軽減します。



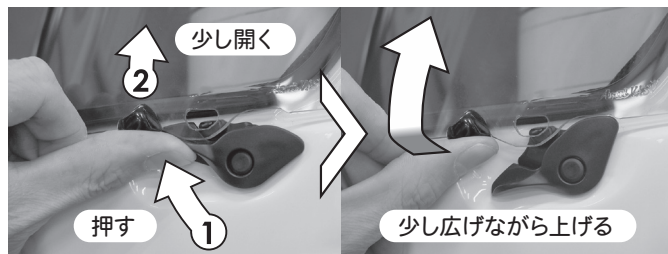
デミストポジションからシールドロックへ  
シールドの指かけの上に指をかけてデミストポジションから更にシールドを下げ、シールドを確実にロックさせてください。



## シールドロックを解除してシールドを開く方法

Vロックレバーの前方を親指の腹で押し上げると、シールドロックが解除され、シールドは一旦デミストポジションに移動します。

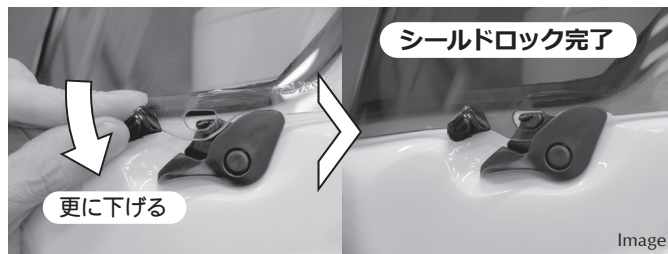
次に、シールドの指かけの下に指を移し、**少し外側に広げながら**シールドを上げます。



## シールドを閉じてシールドロックを完了させる方法

シールドを閉じる際は、先ずデミストポジションまでシールドを下げます。

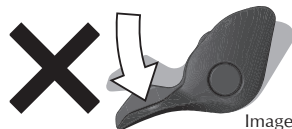
次に、シールドの指かけの上に指をかけて**デミストポジションから更にシールドを下げ**、シールドを確実にロックさせてください。



シールドのロックが不完全な状態で走行すると、風などの外圧によってシールドが不意に開いてしまい危険です。



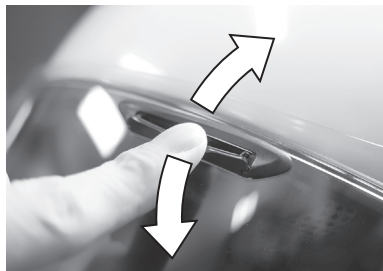
Vロックレバーは絶対に下向きに押さないでください。シールドのロック機構が損なわれるおそれがあります。



## D ブローシャッターの操作

ブローシャッターの中央の膨らみに指をかけて引き下げるとシャッターが開き、外気がヘルメット内に流入します。膨らみを押し上げるとシャッターが閉じ、流入は止まります。

雨の日は、シャッターを閉じてご使用ください。尚、閉じた状態でも水や空気を完全には遮断できません。予めご了承ください。



## E インナーシャッターの操作

インナーシャッターを開く【インダクションモード】

シャッタープレートに設けられた突起を引き下げるとインナーシャッターが開きます。このモードでは、マウススリットからの外気が口元に導かれて息苦しさを解消します。

インナーシャッターを閉じる【デフロストモード】

突起を押し上げるとインナーシャッターが閉じます。このモードでは、外気はディフレクター方向に流れてシールドの曇りを軽減します。

雨の日は、シャッターを閉じてご使用ください。尚、閉じた状態でも水や空気を完全には遮断できません。予めご了承ください。



## F ディフレクターの着脱

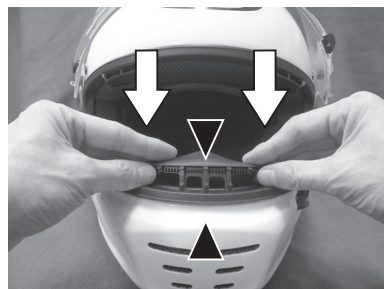
### ディフレクターの外し方

ディフレクター本体の端をしっかりと掴んで引き上げると、ディフレクターを取り外すことができます。



### ディフレクターの付け方

ディフレクターは、窓ゴムとセンターパッドとの隙間に差し込みます。ディフレクター中央のフックとヘルメットの中心を合わせ、フックを奥までしっかりと差し込んでください。

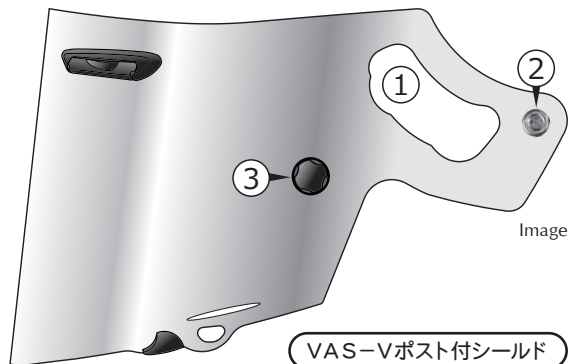


ディフレクターは、マウスシャッターやマウス・スリットより取り入れた空気をシールド内面に向けて吹き付ける作用があり、シールドの曇りを軽減します。



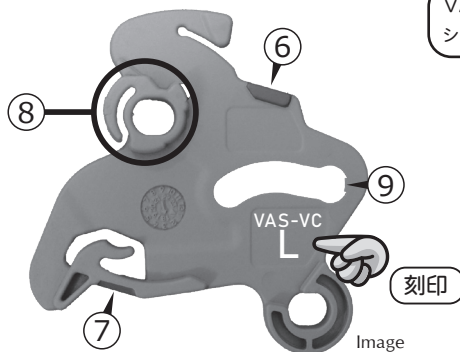
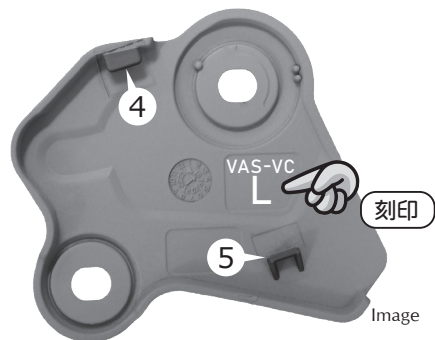
## VAS-VC構成パーツの各部名称

VAS-V ポスト付シールド	①	摺動穴 (物が滑って動く穴)
	②	シールドピン
	③	ティアオフポスト
VAS-VCカバー	④	カバーフック (上)
	⑤	カバーフック (下)
VAS-VC シールドベース	⑥	シールドベースフック受け (上)
	⑦	シールドベースフック受け (下)
	⑧	ベース側突起部
	⑨	シールドピン用ガイドレール



VAS-Vポスト付シールド

VAS-VCカバー



VAS-VCシールドベース

VAS-VCには、VAS-Vシールドシリーズがご使用頂けます。



カバー裏面やシールドベース表面には、L : LEFT (左)、R : RIGHT (右) 等の刻印が入っています。



※シールドベース及びカバーは、見やすくするためにグレーに着色されています。

## G シールドの外し方

①左右のカバーのネジ4本を硬貨で回し、全て取り外します。

硬貨は直径の大きな500円硬貨を推奨。大型のマイナスドライバーや直径の小さな硬貨を使用すると、ネジ頭をなめる（破損させる）おそれがあります。



②シールドロックが掛かっている場合は、Vロックレバーを押し上げ、シールドのロックを解除します。この時、**カバー上部を指で押さえ、Vロックレバーを押し上げた反動によるパーツの落下を防ぎましょう。**

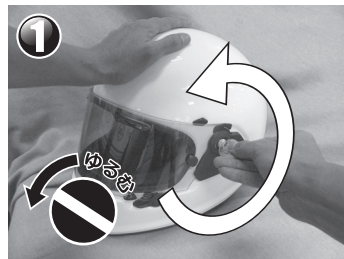


③シールド・カバー・シールドベースが、アセンブリ（パーツが組み合わされた状態）でヘルメットから外れます。



シールドと左右のシールドベース・カバーの五つのパーツが合体した状態を、【VAS-VCアセンブリ】と呼称します。

VAS-VC ASSEMBLY





## H シールドの付け方

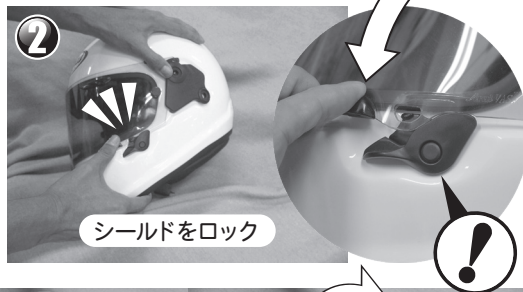
①シールドにシールドベースとカバーが予め組み合わされた、VAS-VCアセンブリを用意します。そして、ヘルメット側のネジ穴にカバーの穴を合致させます。

パーツがバラバラでアセンブリ状態になっていない場合は、23ページの【VAS-VCアセンブリの合体】をご参照ください。



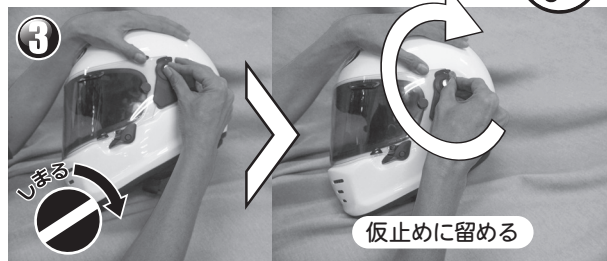
②次に、シールドのロックを行います。シールド側の指かけに親指または人差し指をかけ、カチッ!と止まる位置(ロック完了位置)までシールドを下げます。

この時、Vロックレバーの操作を行う必要はありません。



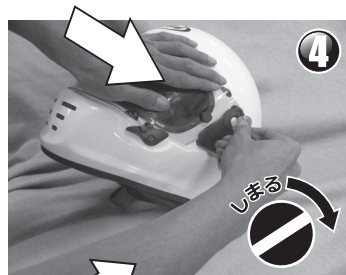
③カバーにネジを取り付けます。ネジは初め手で回し、ネジ穴にネジが正しく噛み合ったら硬貨で締めます。ここではネジは完全に締め込まず、少し動く程度に留めます。

直径の大きな500円硬貨を推奨。





④手のひらでシールドを後方（カバー側）に向けて押し付け、シールド内面を窓ゴムに均等に密着させながらネジを締めます。この作業を左右に行います。



⑤シールドの取り付けが完了したら、シールドを数回上げ下げして作動チェックを行ってください。



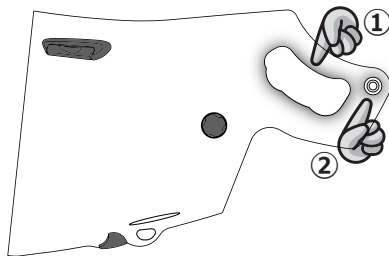
動きがスムーズか、ロック完了位置まで下げたときシールドロックの掛かり具合は良好か、作動の確認を必ず行ってください。



シールドの動きが渋くスムーズでない場合は

一旦シールドを取り外し、①のシールドの摺動穴周辺と②の内側に突き出たシールドピンの軸に潤滑シリコンを少量塗布してください。そして、シールドをヘルメットに取り付けて数回上下に動かして潤滑シリコンを十分に馴染ませてください。

新品のシールドを取り付ける時にも、潤滑シリコンを少量塗布してください。



潤滑シリコン

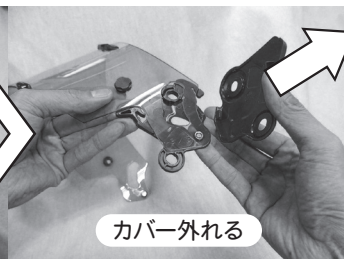
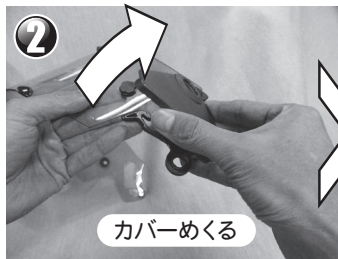
## I VAS-VCアセンブリの分離と合体

### VAS-VCアセンブリの分離

①VAS-VCカバー前方の底の部分に親指を掛けてください。



②親指でVAS-VCカバーを上をめくると、VAS-VCシールドベースのフック受け(下)に入り込んでいたカバーフック(下)が外れ、VAS-VCカバーを取り除くことができます。



③残されたVAS-VCシールドベースをシールド裏側へ抜き取ります。反対側も同様に、VAS-VCカバーとVAS-VCシールドベースを外してください。



## VAS-VCアセンブリの合体

①VAS-VCシールドベースをシールドの裏側からあてがい、はめ込みます。

取り付けのポイントは、ベースから突き出している部分がシールドの摺動部途中の膨らみに収まっていること。そして、シールドピン用のガイドレール一番後ろにシールドピンが入っていることです。



収まっている

突起部

入ってる

シールドピン

Image



裏からあてがう

②カバーフック(上) をベースフック受け(上) に引っ掛け、そこを支点にVAS-VCカバーを下向きに寝かせ、VAS-VCシールドベースにピッタリと被せませう。

Image



フックを掛ける

③カバーフック(下) がベースフック受け(下) に掛かるよう、表裏を指先で挟み、パチン! と入る感触が生じたら取り付け完了です。反対側も同様に取り付けを行ってください。

挟むのはこの辺り



指で挟んで留める

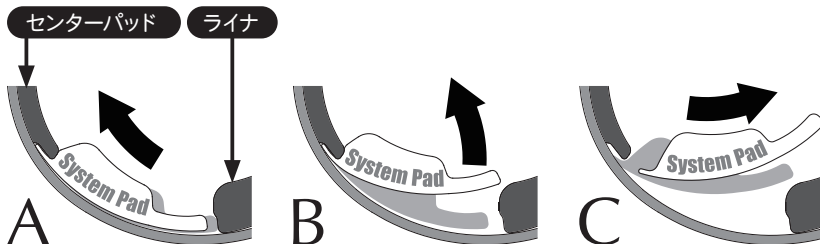
## J システムパッドの着脱

当ヘルメットのシステムパッドは、必ず後方を持ち上げて外してください。  
システムパッドの前方を無理に持ち上げると破損しますのでご注意ください。

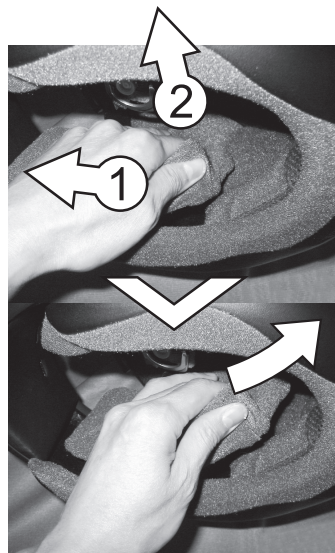


### システムパッドの外し方

システムパッドを掴み、センターパッド側に押し付けてライナの凹部への引っかかりを解除します。（下図Aを参照）そして、システムパッドの後方を持ち上げます。（下図Bを参照）システムパッドの後方が外れたら、斜め後方に抜き取ります。（下図Cを参照）



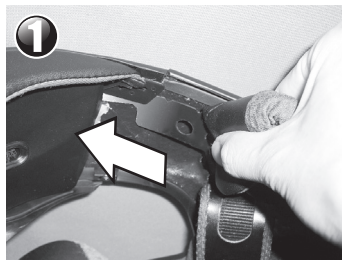
Image



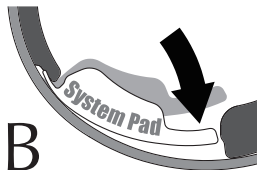
## システムパッドの付け方

①システムネックの杵先端が外れて飛び出している場合は、帽体とセンターパッドの隙間に差し込みます。杵先端が正しく差し込まれていないと、ヘルメット内に突出して顔を傷付けるおそれがあります。そして、システムパッド裏の表示ラベルで左右を確認し、取り付けを行う側のシステムパッドの中央の穴に予めあご紐を通しておきます。

杵先端



②システムパッド前方のツメから先にヘルメットにはめ込みます。センターパッドの隙間にシステムパッド前方のツメを奥まで差し込み、(下図Aを参照)システムパッドの後方をヘルメット側へ押し付けます。(下図Bを参照)最後に、あご紐を引っばって弛みを取り除きます。



システムパッド中央の穴にあご紐を通さないでシステムパッドを取り付けると、あご紐の機能が損なわれて危険です。また、システムパッドを付けずにヘルメットを着用するのも大変危険です。

## K パッドカバーの着脱

### パッドカバーの取り外し

①システムパッド後部から先にパッドカバーを外します。そして、パッドカバー全体をパッド本体から外します。

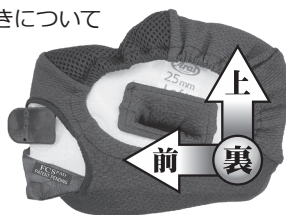
②パッド裏面のストッパー（あご紐の通る穴の、四角く固い部分）を持ってカバーを引き出します。カバーを引き出す際には、パッド本体（発泡スチロール製）を壊さないようにご注意ください。

取り外したカバーは洗濯機で洗うことができます。（洗濯ネットの使用を推奨）パッド本体は熱や変形に弱いデリケートな素材で構成されているので、やさしく手洗いしてください。



### システムパッド各部名称

### パッドの向きについて



システムパッドは、肌に接する側が表です。





## パッドカバーの左右の確認方法

パッドカバーとパッド本体には、左（L：Left）右（R：Right）が、縫い付けラベルや布製シールによって表示されています。



カバーの表示



パッド本体の表示



必ず、同じ方向の表示ラベルをベアにしましょう。

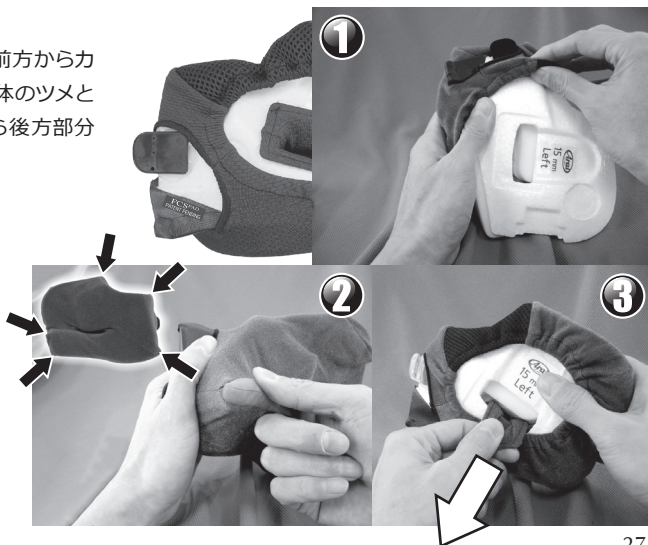


## パッドカバーの付け方

同じ方向のパッド本体とカバーを用意して、①のように、前方からカバーをかぶせます。この時、カバー前方の穴からパッド本体のツメと角が出るようにカバー位置の調整を行い、位置が整ったら後方部分にもカバーをかぶせます。

②カバーをかぶせた直後は、ウレタンパッドの角がカバーに押されて丸まっています。このままではかぶり心地に影響するのでウレタンの角を出す作業が必要となります。ウレタンパッドの角を出すには、パッド表面の中央の穴に指を入れ、矢印で示した部分のパッドカバーを指先でグイッと引っ張り上げます。すると、パッドとウレタンフォームとの間に空間ができ、ウレタンの角が回復します。

③パッドの中央の穴にストッパーを縦向きに通し、パッド裏面の四角い窪みに収めます。



## 調節パッドによるシステムパッドのサイズ調節

システムパッドには、容易に剥がすことができる【調節パッド】が予め取り付けられています。この調節パッドを取り除くことで、システムパッドを約5mm薄くすることができます。システムパッドからカバーを外し、一番上に貼られている調節パッドを剥がします。このパッドは本体パッドにストライプ状に部分接着されているので容易に剥がすことができます。調節パッドを剥がし終えたら、システムパッド本体にパッドカバーをかぶせてください。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくっ付けないようご注意ください。

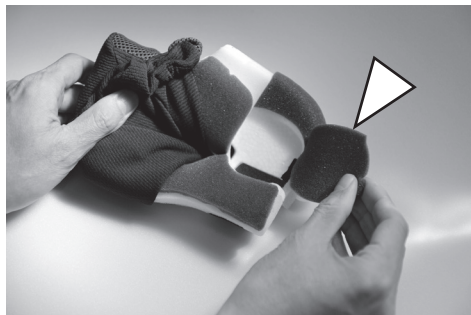


調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようご注意ください。尚、剥がした調節パッドは、お住まいの地域の「軟質ポリウレタンフォーム製品」の分別ルールにしたがって廃棄してください。

## システムパッドのインカムホールについて

耳が収まる部分に貼られているウレタン（遮音性ウレタン）には丸い切れ込みが入っています。これを剥がして取り除くと、ヘルメットスピーカーを取り付けるスペース（インカムホール）ができます。

直径5cm未満の薄型タイプヘルメット  
スピーカーをご利用ください。





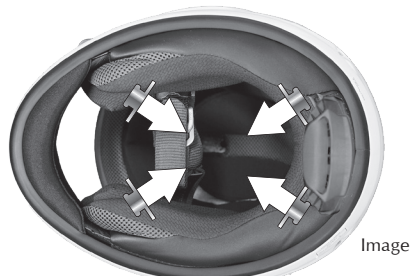


*Racing Specialities*

## L システム内装の着脱

### システム内装の外し方

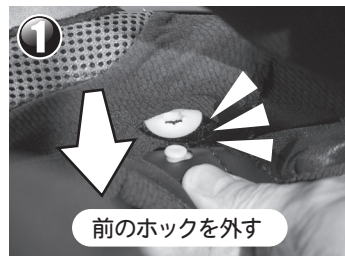
①内装は四つのホックで衝撃吸収ライナの内面に取り付けられています。それぞれのホックになるべく近い枠（保持プレート）を持ち、ヘルメットの中心に向けて引っばってホックを取り外してください。



それぞれのホックを引っばる向き

②ヘルメット内で半球形に開いているシステム内装を折り畳んで取り出します。

外したシステム内装は、折り癖がつかないように広げておいてください。



前のホックを外す



後のホックを外す



## システム内装の付け方

①内装の前後の向きに注意して、半球形に開いているシステム内装を折り畳んでヘルメット内に収めます。そして、ヘルメットの内部で元の形に広げます。

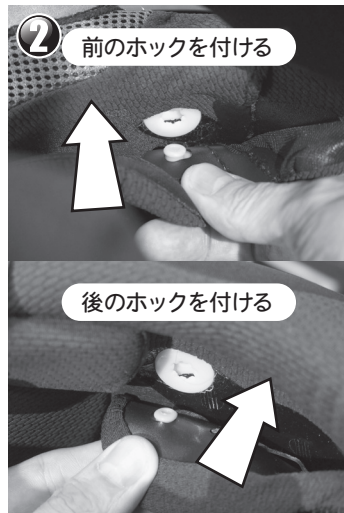


②内装のそれぞれのホック位置を合わせて押し込みます。

かぶり心地に影響を及ぼしますので、システム内装取り付け完了後に内装の歪みを必ず整えてください。



ホック及び内装枠の破損防止のため、全てのホックを外してから内装を取り出してください。また、乗車用手袋をヘルメット内に入れると、手首部分の面ファスナーが内装に貼り付いたり、手袋に設けられたプロテクターやエアダクト類がヘルメットの内部を傷める場合がありますのでご注意ください。

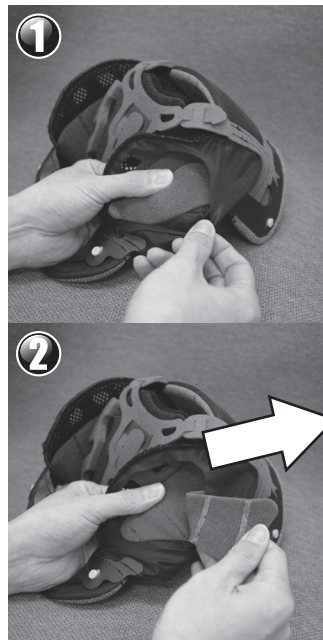


## 調節パッドによるシステム内装のサイズ調節

システム内装には、容易に剥がすことができる【調節パッド】が予め取り付けられています。この調節パッドを取り除くことで、システム内装のサイド部を片側で約4mm薄くすることができます。

①システム内装のサイドパッド（側頭部にあたる部分）の外側のポケットをめくります。

②調節パッドは、本体パッドにストライプ状に部分接着されているので丁寧に剥がしてください。その後ポケットを閉じてシステム内装の形を整え、ヘルメットに取り付けてください。尚、外した調節パッドには接着力が残っていますので、周辺の物に誤ってくっ付けないようにご注意ください。



調節パッドを剥がす際、本体側のパッドをちぎってしまわないようにご注意ください。剥がした調節パッドは、お住まいの地域の「軟質ポリウレタンフォーム製品」の分別ルールにしたがって廃棄してください。

## M ヘルメットのサイズ調節

標準設定の内装ではヘルメットがきつい方やゆるい方のため、厚さの異なる内装に替える事で、頭周りと頬部のサイズ調節が行えます。システム内装とシステムパッドの厚さの異なるオプションが用意されていますが、交換される場合には、お持ちのヘルメットの標準設定をご参照のうえ、お選びください。

### システム内装による頭回りの調節

【54と55 - 56】【57 - 58と59 - 60未満】にはそれぞれ共通の内装枠が使用されています。この事により表のような頭回りの微調整が行えます。内装枠サイズは数字（Ⅰ～Ⅴ）で表示されています。この枠の数字が異なると取り付けることができませんのでご注意ください。

ヘルメットサイズ (cm)	内装枠サイズ・パッド厚 (mm)		
54	Ⅱ-7	Ⅱ-10	
55 - 56		Ⅱ-7	Ⅱ-10
57 - 58	Ⅲ-7	Ⅲ-10	
59 - 60未満		Ⅲ-7	Ⅲ-10
61 - 62未満		Ⅳ-7	
フィット感	ゆるくなる	標準設定	きつくなる

### システムパッドによる頬部の調節

システムパッドは内部のウレタンパッドの厚みが異なる以外は全て共通で、基本的にどの厚さのシステムパッドも取り付けことができます。しかし、標準設定よりも極端に厚くしたり薄くしたりすると、ヘルメットのかぶり心地を大きく損なう場合があります。

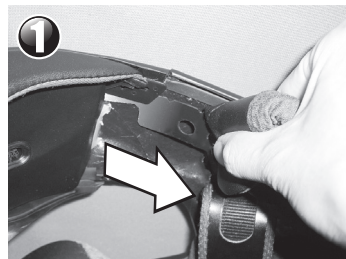
ヘルメットサイズ (cm)	パッド厚 (mm)		
54	20	25	
55 - 56・57 - 58	15	20	25
59 - 60未満・61 - 62未満	12	15	20
フィット感	ゆるくなる	標準設定	きつくなる

## N システムネックの着脱

### システムネックの外し方

①センターパッドの裏に差し込まれているシステムネックの【杵先端】を、左右とも抜き取ります。

杵先端



②システムネック中央の成形部品付近をしっかりと掴みます。



ヘルメットの縁ゴムに沿って左か右向きに3～4 cmほどスライドさせます。



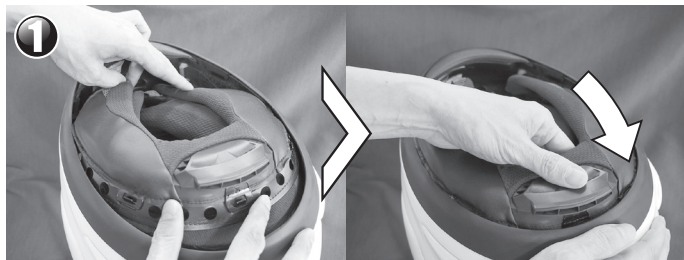
スライド後に、システムネックを引き抜くことができます。



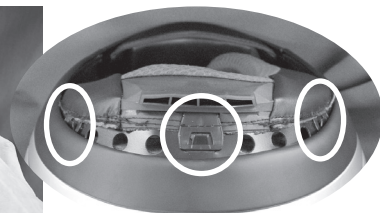
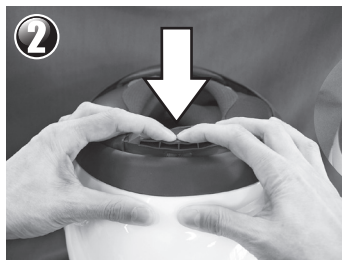
システムネックを外す際は、システムネックの杵ごとしっかりと持ってください。尚、ヘルメットを持ち歩く際にシステムネックを持つと、システムネックが外れてヘルメットが落下するおそれがあります。

## システムネックの付け方

①システムネック両端をすぼめ、ヘルメット内に一旦入れます。そして、ヘルメット側の隙間にシステムネックの枠を均等に差し込み、システムネックの左右のズレを修正しておきます。



②ネック後部のフックの取り付けを行います。先に左右のフックを上から押し込んで取り付け、中央は写真②のように両手で挟むようにして取り付けます。尚、各フックは「カチッ」と入る感触がするまで確実に押し込んでください。

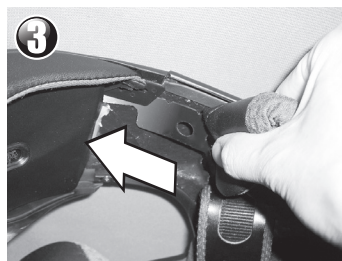


フックの位置

取り付け後にシステムネックを少し引っぱってもフックが外れないことを確認してください。



③システムネックの【枠先端】をセンターパッドの裏に差し込み、システムパッドを取り付けて作業終了です。



枠先端が正しく差し込まれていないと、ヘルメット内に突出して顔を傷付けるおそれがあります。



システムネックはヘルメットサイズによって、その大きさが異なります。お客様がお持ちのヘルメットサイズをご確認の上、お選びください。



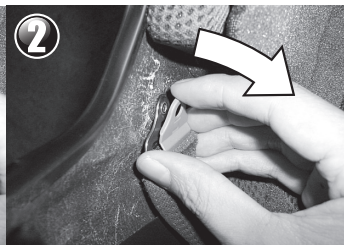
## ○ ストラップカバーの着脱

### ストラップカバーの取り外し

①あご紐基部の金属製アンカーにかぶさっている、ストラップカバーの取り付け具【カバーハンガー】をしっかり持ちます。



②カバーハンガーを上の方からめくるようにして、金属製アンカーから取り外します。



③ストラップカバー全体をあご紐から抜き取ります。反対側のストラップカバーも同様に外してください。

ストラップカバーの大きさは、ヘルメットサイズによって異なりますので、パーツリストをご参照ください。

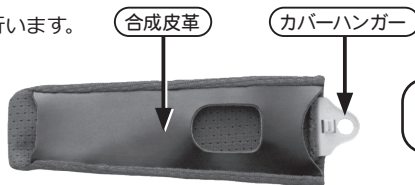


### ストラップカバーの取り付け準備

まず、ストラップカバーの左右と表裏の確認を行います。



【左用ストラップカバー・裏】



【右用ストラップカバー・裏】

ストラップカバーは、肌に触れる面が「表」。合成皮革側が「裏」です。



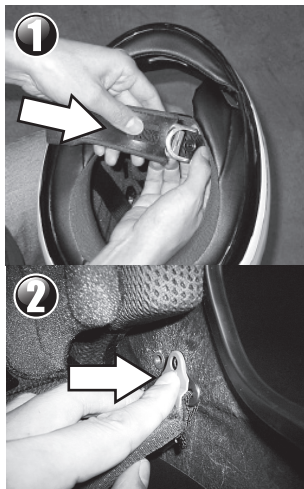


## 左用ストラップカバーの取り付け

- ①ストラップカバーの裏(合成皮革側)を手前に向け、Dリング側のあご紐の根元まで差し込みます。
- ②カバーハンガーを、あご紐の金属製アンカーに重ね合わせて押し付けます。

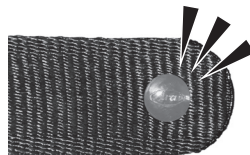


カバーの途中に開いている穴に指を入れてDリングを送り出すと、楽に通すことができます。

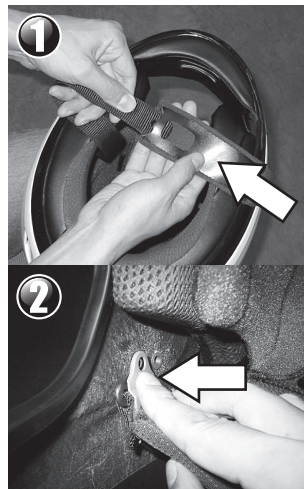


## 右用ストラップカバーの取り付け

- ①ストラップカバーの裏(合成皮革側)を手前に向け、長い方のあご紐の根元まで差し込みます。
- ②カバーハンガーを、あご紐の金属製アンカーに重ね合わせて押し付けます。



あご紐は、刻印の入ったスナップの頭を上に向けてカバーに通します。



ストラップカバー未装着の状態でヘルメットを使用しないでください。また、ストラップカバーの取り付けが不十分だと、ヘルメットをかぶる際にストラップカバーが外れるおそれがあります。

## P ヘルメットのお手入れ

### パーツ類のお手入れ 【中性タイプの食器洗い洗剤を推奨】

VAS-VCカバーやVAS-VCシールドベース、VAS-Vロックの構成部品等の樹脂成型パーツは、洗剤を適量の水で薄め柔らかい布にふくませてパーツ表面の汚れを拭き取ってください。その後、水を含ませた布で洗剤成分をよく取り除き、自然乾燥させてください。



お手入れにアルコールを含むクリーナー類やシンナー系の溶剤、ガソリンなどを使用すると、塗装面や素材が侵されますので絶対に使用しないでください。

### シールドのお手入れ 【中性タイプの食器洗い洗剤を推奨】

シールド表面にオイルやワックス・ガソリンなどが付着すると、たとえ目に見える変化がなくとも素材が侵されてしまいますので、シールドの定期的なクリーニングをお勧めします。クリーニングは水で薄めた中性洗剤でシールド表面の油分などを洗い流し、流水で十分に濯いでから柔らかい布で水分を拭き取ります。



シールドの素材は、酸性やアルカリ性の洗剤を使用したり、アルコール成分を含むクリーナー類で拭いたり、シンナー系溶剤、ガソリンなどが付着した場合や、車窓用の撥水剤などを使用するとシールドの素材が侵されシールドにヒビ割れが生じます。そして、万一の衝撃時に、そこをきっかけに破損するおそれがあります。また、シールドに取り付けられているパーツ類も破損するおそれがあります。



シールドに虫などが付着して硬くなってしまっている場合は、シールドを真水に浸けて柔らかくしてから、薄めた中性洗剤を染み込ませた柔らかい布で虫を拭き取ってください。尚、中性洗剤を薄めた液中にシールドを長時間浸け込むのは絶対にお止めください。

## ヘルメット本体の洗いか方 【中性タイプの洗濯洗剤を推奨】

ヘルメットを丸洗いする時は、ヘルメットからシールドや着脱式内装を取り外してヘルメット全体を中性タイプの洗濯洗剤を少量溶かした水に浸し、ヘルメット表面、あご紐、内装のメッシュを洗い、その後真水で十分に濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、日陰の風通しの良い場所にヘルメットを逆さまに吊して自然乾燥させてください。



ヘルメットを乾燥させる際、50℃以上加熱したりヘルメットを長時間日光にさらし続けると、ヘルメット内の衝撃吸収ライナが熱や太陽光に含まれる紫外線により変形、変質し、衝撃吸収性が失われてしまいますのでご注意ください。

## 着脱式内装のお手入れ 【中性タイプの洗濯洗剤を推奨】

着脱式内装をヘルメットから取り外して手洗いを行います。システム内装・システムネック等の枠が付いた内装は、枠を折り曲げたり変形させないよう、やさしく洗ってください。そして、洗い終わったら水でよく濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。



内装を洗濯機で洗う際は、必ず【洗濯ネット】に入れ、ソフト・弱・手洗いなどの素材に負担をかけないモードを選択してください。また、衣類乾燥機や洗濯乾燥機による内装の乾燥につきましては、その乾燥温度が50℃以上に達する場合はご使用頂けませんのでご注意ください。

※乾燥温度については、衣類乾燥機や洗濯乾燥機に付属している取扱説明書をご確認ください。

## Q オプションパーツリスト

パーツ名		部品番号
VAS-V ポスト付シールド	ライトスモーク※1	011053
	クリアー	011054
	スモーク	011055
VAS-V MV シールド	セミスモーク	011056
	クリアー	011057
	スモーク	011058
VAS-V MV ピンロック120 (クリアー)		011079
VAS-V ダブルレンズシールド	クリアー	011063
	セミスモーク	011064
VAS-V ティアオフシールド	クリアー (5枚入)	011065
	スモーク (3枚入)	011067
VAS-V PS ブロシェードシステム		011070
VAS-V PS ノンバイザーシールド		011071
VAS-V PS サンバイザー (スモーク)		011073
VAS-V PS サンバイザーミラー	スモーク/シルバー	011074
	スモーク/レッド	011075
	スモーク/ブルー	011076
VAS-V PS ピボットカバー		111138
VAS-VC シールドベース&カバーセット※2		021068
VAS-VC ネジセット (4本入)		111001

※1：ラバイドNEO標準装備シールド。

※2：VAS-VC ネジセットも同セットに含まれます。

※3：ラバイドNEO標準装備ノーズディフレクター。

パーツ名		部品番号
NEO AMシステムパッド	12mm	055615
	15mm	055616
	20mm	055617
	25mm	055618
NEO AMシステム内装	Ⅱ-10mm	074383
	Ⅱ-7mm	074384
	Ⅲ-10mm	074387
	Ⅲ-7mm	074388
	Ⅳ-7mm	074391
NEO AM ストラップカバー	(54) (55-56)	073625
	大 (57-58 ~ 61-62)	073626
NEO AM システムネック	(54 ~ 59-60)	074400
	大 (61-62)	074401
ESチンカーV		075711
RX-7RR2 ノーズディフレクター※3		082357

アライヘルメットではヘルメットやパーツ類のお客様への直接販売を行なっていません。お客様のお近くのオートバイ用品取扱店にてご注文及びご購入ください。オプションパーツの価格につきましては、アライ製品のカatalogやアライヘルメットのホームページをご参照ください。尚、通信料はお客様のご負担となりますので、予めご了承ください。

## ヘルメット内装生地のコットン化について。

ヘルメットの内装生地には化学繊維が使われています。しかし天然素材以外は使用できないお客様のために天然コットン100%生地内装の製作ご相談もアライヘルメット品質管理課で受け付けています。

アライヘルメット品質管理課

☎048 - 645 - 3661

受付時間：午前9時～午後5時（土日、祝日を除く）



NEO AMシステム内装



NEO AMシステムパッド



NEO AMトラップカバー



NEO AMシステムネック

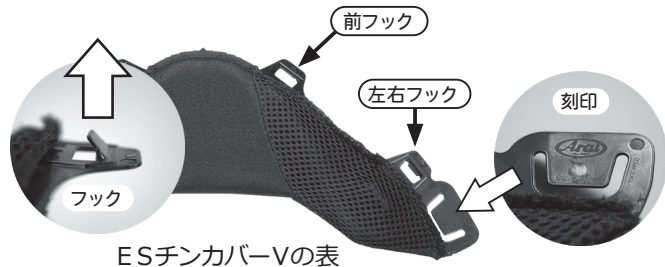
コットン生地への変更は上記の内装に行えます。尚、コットン生地は、標準内装生地とは色合いが異なりますので予めご了承ください。



## お客様へのお知らせ

フックが起きている、またはAraiの刻印が入っている方向がESチンカバーVの表（ヘルメットに取り付けた際に外から見える側）となります。

チンカバーを表裏逆に取付けると、外れやすくなる、外れなくなる等の不具合が生じます。



## ESチンカバーVの付け方

①ヘルメットを逆さまにして、固定式エアロフラップを少しめくってエアロフラップとセンターパッドとの隙間を確認します。

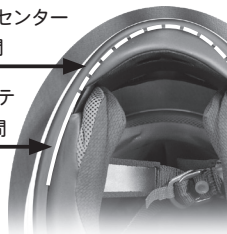
②チンカバーの表が手前に向いていることを確認し、隙間に前フックを差し込みます。チンカバーの左右も縁ゴムとシステムネックとの隙間に収めてチンカバーの位置と形状を整えます。



### 別売りオプションパーツ

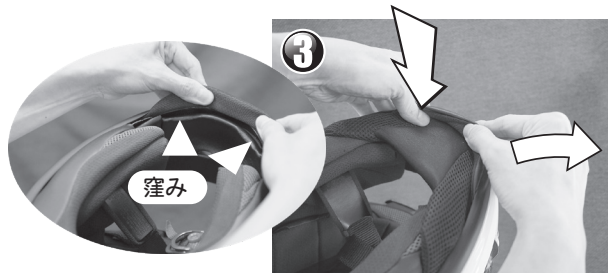
フラップ下のセンターパッドとの隙間

縁ゴムとシステムネックの隙間



③センターパッドにはチンカバーの前フックを押し込みやすくする為の窪みが設けられています。固定式エアロフラップを少しめくり、そこを目安にチンカバーの上から押し込みます。前フックが「カチッ」と入る感触がするまで確実に押し込んでください。

チンカバーを初めて付ける際、フックがキツイ場合があります。片方ずつ強めに押し込んでください。



④左右のフックも、「カチッ」と入る感触がするまで片方ずつ確実に押し込んでください。チンカバーを少し引っばってもヘルメットから外れなければ取り付けは良好です。



⑤フレームに備わった内蔵フックを、ヘルメットの縁ゴムの外に引っ掛けます。



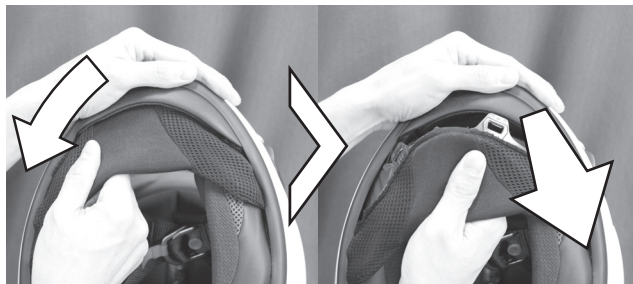
内蔵フックを縁ゴムに引っ掛けることで、チンカバーのヘルメット内への沈降を防ぎます。





## ESチンカバーVの外し方

チンカバーの端(左右のメッシュ生地の部分)を内部フレームごとしっかり掴みます。この時、固定式エアロフラップやシステムネックなどを一緒に掴まないよう、ご注意ください。掴んだ方を縁ゴムに沿わせるようにして下向きに2~3cmほど引っぱると、全てのフックが固定解除されますのでチンカバーを抜き取ります。



## チンカバーのお手入れ方法

チンカバーに使用されている撥水性生地の性能を維持するため、定期的に洗濯されることをお勧めいたします。洗剤は、柔軟剤や漂白剤を含まない中性タイプの洗濯洗剤をご使用ください。チンカバーはヘルメットから取り外して手洗いをしますが、チンカバーの枠を折り曲げたり変形させないように、やさしく洗ってください。そして、洗い終わったら水でよく濯いでペーパータオルなどで水分を取り除き、風通しの良い日陰で自然乾燥させてください。



チンカバーには撥水性の高い生地が使用され、小雨程度では内部に水は染み込みにくくなっています。しかし、激しい雨によってチンカバーが湿気を帯びたままヘルメットを使用すると、ヘルメット内部の湿度上昇によってシールドの曇りが助長されるおそれがあります。激しい雨の走行時には、チンカバーを取り外してヘルメットをご使用ください。

アライヘルメットのホームページでは、ESチンカバーVの着脱方法を動画配信しています。

※通信料はお客様のご負担となります。予めご了承ください。



動画配信QRコード

配信動画は二つあります、ラバイドNEOの場合はフックタイプではない、エアロフラップとセンターパッドの隙間にチンカバーの前フックを差し込む方式をご覧ください。



## シールドカラーの選び方



晴天

晴れた日の日中は、陽射しや路面の照返しの眩しさを軽減するスモークシールドがお勧めです。

※スモークシールドは、周辺が明るい状況時に限りご使用ください。



曇り・雨

曇りや雨天の走行には、クリアシールドがお勧めです。

※アルコール成分を含む撥水剤（自動車窓用）はシールド素材を侵し、破損させるおそれがありますので絶対に塗らないでください。



夕方・夜

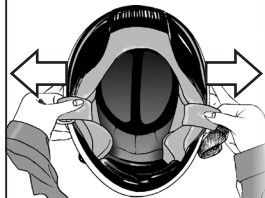
夕方や夜にはクリアシールドをお勧めします。ツーリングなどで走行が夜間にも及ぶ場合は、日没前に安全な場所で停車して、昼用シールドからクリアシールドに交換してください。



全天候

朝→昼→夜、晴れ→曇り→雨と、走行条件が日々刻々と変化する通勤通学、配達業のライダーにはライトスモークシールド・セミスモークシールドがお勧めです。

## FCS採用ヘルメットのかぶり方

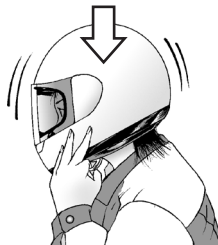


FCSは頬パッドが下まで回りこんでいるため間口が狭くなっています。あご紐をしっかり持って左右に広げると間口が広がり、ヘルメットがかぶりやすくなります。

※ヘルメットを脱ぐときも同様に、あご紐を左右に広げると脱ぎやすくなります。



ヘルメットは真上からではなく、額から先にかぶります。このようにする事で前髪が目の前に垂れ下がりにくくなり、同時に耳たぶの折れも防げます。



天井パッドが頭に触れるまであご紐を下に引っ張り、ヘルメットの位置を整えます。最後に、あご紐を締めればヘルメットの装着完了です。



## 株式会社 アライヘルメット

☎ 330 - 0841 埼玉県さいたま市大宮区東町2-12 ☎ 048 - 641 - 3825

ヘルメットに関するご質問ご相談は品質管理課まで。

☎ 048 - 645 - 3661 受付時間 : 午前9時～午後5時 (土曜・日曜、祝日を除く)